教育ファームの推進

平成30年度食料産業・6次産業化交付金　地域での食育の推進事業（食育事例）

# 農業体験から始まる「給食センター１品運動」

事業実施主体：松江市教育委員会（島根県）

島根県松江市

○　松江市は、第2次健康まつえ21基本計画において、「みんなで支え合い健康寿命をのばそう」を基本理念に、市民一人ひとりが「食」に関する知識と「食」を自ら選択する力を持ち、楽しみながら自分の健康を維持する食習慣の実践を目指している。

○　当事業では、市立小中学校の児童生徒を対象に農業体験を行い、生産者等の指導の下で野菜を栽培し、収穫した野菜を学校給食の食材として取り入れる「給食センター１品運動」を実施した。

## 【取組の内容】

**給食センター１品運動**

**○ 農業体験の実施**

・実施小中学校：11校

・実施内容：ごぼう、だいこん、サツマイモ等の種まき、苗植え体験及び収穫体験等（学校により品目は異なる。）

**○ 収穫野菜の使用と交流給食の実施**

・管轄給食センター（8）・給食室（2）による収穫野菜の給食での提供：各施設1～3回

・指導生産者等との交流給食：5回（うち、ごぼう料理講習会：1回）

・給食センター見学：2回

ごぼう種まき「おいしいごぼうが育ちますように。」

ごぼう収穫「学校給食でいただきます。」

## 【取組の成果】

○　食生活がたくさんの人々の様々な活動に支えられていることに気づき、食に対する理解を深めるとともに、地元食材の栽培を自ら手掛け、地域の魅力に触れることで地産地消への理解の増進に寄与した。

○　「こんだてだより」等による児童生徒の家庭への情報発信や松江市農林水産祭での写真展示等による取組のPRにより、食育活動への理解を深めることができた。

**○ 児童生徒の感想・振り返り**

・農業体験は楽しく、栽培に対する意欲や農作物が育つ喜びを感じることができた。

・農作物を育てるのに、生産者がどれだけ大変な作業をしているのかを実感できた。

・収穫した野菜を使用した給食はひときわおいしく、残さず食べた。

収穫したごぼうを使った給食（秋鹿ごぼうのサラダ）